港湾振興便り

2022. 11
第186号

＊：＊

目　　次

＊：＊

1　ポートエッセイ　－　経済と暮らしを支える港づくり全国大会　－
～　日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長）　中原　八一　～

2　トピック

●大物ブリヒット、釣りの引きに大喜び、苫小牧東港一本防波堤で「解放記念釣り大会」
（日本釣振興会北海道地区支部）

●「ブルーカーボン講演会」が開催されました。
（北海道開発局　留萌開発建設部　築港課）

●モノを運ぶ港と人を運ぶ鉄道で地元小学生が地域交通を学ぶ
（高岡市産業振興部みなと振興課）

●北陸地域国際物流戦略チーム「令和4年度第１回広域バックアップ専門部会」を開催しました。
（北陸地方整備局　港湾空港部　クルーズ振興・港湾物流企画室）

●新潟港東港区で全国の高校生が参加する防災訓練を実施
（北陸地方整備局　港湾空港部）

●新潟の海砂研究所～新潟の海の幸は砂が大事～
（北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所）

●第49回川崎みなと祭りが開催されました！
（国土交通省関東地方整備局首都圏臨海防災センター・京浜港湾事務所）

●「東京湾大感謝祭2022」3年ぶりに対面で開催！
（国土交通省関東地方整備局港湾空港部・千葉港湾事務所）

●御前崎港親子釣り体験教室を開催しました！
（御前崎みなとまち振興連絡会（事務局：御前崎市））

●「伊勢湾・三河湾の水産資源に必要な栄養や生息場について考えるシンポジウム」を
開催！

（中部地方整備局 港湾空港部）

●「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」誕生

（近畿地方整備局 港湾空港部 港政課）

●今治港開港 100 周年記念事業「みなとフェスティバル 100」が開催されました！

（今治市 建設部建設政策局港湾漁港課）

●「第 1 回八代港の中長期ビジョンに関する検討会」を開催

（九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所）

３ お知らせ

◇イベント名：深日洲本ライナーの運航

＊：＊

１ ポートエッセイ ― 経済と暮らしを支える港づくり全国大会 ―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

＊：＊

先月開催しました当連合会を含む港湾5団体による「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が3年ぶりに人数制限を行わずに開催することができ、久方ぶりに会場である砂防会館別館が身動きができないくらいの賑わいとなった。

また、当連合会の会員から多数のご出席をいただき来年の港湾予算の確保に向けてご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

古川国土交通大臣政務官を始め、森山自由民主党港湾議員連盟会長からご挨拶をいただき、また多くの国会議員の皆様方からもご臨席をいただいた。

港湾における新年度予算の確保に向けて例年この時期に全国から港湾所在首長をはじめ、港湾関係団体からご参集いただき、藤井周南市長、西脇聖籠町長、大堀新地町長、田邉静岡市長からは、港湾整備・振興に関する意見表明があった。

GX（グリーン・トランスフォーメーション）、DX（デジタル・トランスフォーメーション）に関する意見や東日本大震災の被災地からは早期の復興、今年の台風１５号による被害対応での港湾の果たした役割、また輸出量が拡大している農産物においての港湾と産地の連携についての意見をいただいた。

その後、田岡新宮市長から「港湾の整備・振興に関する要望書」の提案があり、全会一致で決議を行い、その場で古川国土交通大臣政務官に要望書をお渡しした。

「経済社会活動の確実な回復と経済好循環の加速・拡大」、「国民の安全・安心の確保」、「豊かで活力ある地方創りと分散型国づくり」の三本柱の要望書となっている。

全国大会終了後に、日本港湾協会、港湾都市協議会、日本港湾振興団体会の代表により、自由民主党遠藤総務会長、鈴木財務大臣の順に訪問して要望活動を行った。

遠藤総務会長からは、港湾の重要性は認識していると理解を示していただいたことから、予算の確保をお願いした。

また、再開が遅れている国際クルーズの早期再開に向けてのご尽力をお願いした。

鈴木財務大臣からは、令和5年度の予算編成は厳しい状況にあるが、必要なものは付けるとの回答をいただいた。

引き続き、この五団体のなかの一団体として港湾整備・振興に向けての活動を進めて参ります。

ご支援・ご協力をお願いします。

＊：＊

２ トピック

＊：＊

●大物ブリヒット、釣りの引きに大喜び、苫小牧東港一本防波堤で「開放記念釣り大会」

（日本釣振興会北海道地区支部）

今春、釣り場として開放された苫小牧東港の一本防波堤（正式名・内防波堤Ａ）で１０月２日、「一本防波堤開放記念釣り大会」が行われ、快晴に恵まれる中、参加者は晩秋の釣りを楽しみました。

国土交通省により同港を含め全国１６港が「釣り文化振興モデル港」に指定されており、日本釣振興会北海道地区支部（支部長　地田哲哉北海道新聞ホットメディア社長）は同防波堤の釣り場開放協議を苫小牧港管理組合と進め、今年４月２３日に立ち入り禁止フェンスから先端部までの

５００㍍を開放しております。

釣り大会は同北海道地区支部主催となっており、札幌、苫小牧を中心に４３人の参加者が防波堤への関心の高さを示しておりました。

苫小牧海上保安署による安全講習も行われた後、午前６時から競技が開催され、大会では魚体の大きさを競い合いました。先端部から基部寄り１００㍍付近では午前７時すぎに、美唄市の５２歳の参加者が、３０㌘のジグサビキで７４㌢のブリを釣り上げ、一般の部で優勝。「引きは強かった」と興奮気味に話しておりました。　また、小学２年生の参加者は「釣りは大好き」と話すなど、釣りに熱中していました。

ヒットしたブリ

釣ったガヤを見せる参加者

●「ブルーカーボン講演会」が開催されました

（北海道開発局　留萌開発建設部　築港課）

令和4年9月29日（木）、留萌開発建設部は 2050 年カーボンニュートラルに向けた有効な吸収源対策の一つであるブルーカーボン生態系に着目し、管内におけるブルーカーボンの取組を後押しするため、留萌開発建設部会議室で「ブルーカーボン講演会」を開催しました。

はじめに、平井　康幸留萌開発建設部長より、「地域のブルーカーボンの取組を推進するには、国や自治体だけではなく、漁業関係者、民間企業、市民団体など多様な主体の皆様との連携が必要であり、様々な取組を後押ししたい」と開会の挨拶がありました。

続いて、ブルーカーボン研究の第一人者である国立研究開発法人海上・港湾・空港技術研究所　港湾空港技術研究所　沿岸環境研究グループ長の桑江　朝比呂氏より、「Jブルークレジット®について」と題した講演をいただきました。

講演では、社会実装を進めるためのヒト・モノ・カネ・シクミ、クレジット認証申請の要件として、「気候変動対策をも目的として自主的に事業を開始・改変した追加性のある活動」の必要性や増毛町海岸の藻場再生などの事例紹介があり、加えて、今まで実施している漁業と気候変動対策を両立して発展させることもできることから、多くの方々にブルーカーボンの取組にご参加いただきたい」とのお言葉がありました。

質疑では、留萌港内で計画するブルーカーボンの取組推進に向けた藻場の調査方法、気候変動対策としての追加性の判断及び希少種海藻の環境価値などについて、予定時間を超過するほどに議論が交わされました。

今回の講演会は、ブルーカーボンの取組を担う可能性がある北海道留萌振興局、管内沿岸の自治体及び漁業協同組合の方々にご案内し、会場27名、WEB配信13名の参加がありました。会場には、山口北海道留萌振興局副局長、中西留萌市長及び堀増毛町長にもご出席いただくなど留萌地域の関心の高さがうかがえました。また、講演会終了後、参加者から「講演内容がわかりやすくブルーカーボンに対する理解を深められた」などの声が聞かれました。

これからのブルーカーボン生態系の創出や再生、Jブルークレジットを導入したさらなる取組の活発化により、カーボンニュートラル社会の実現が期待されます。

桑江沿岸環境グループ長によるご講演

参加者による質疑

●モノを運ぶ港と人を運ぶ鉄道で地元小学生が地域交通を学ぶ

（高岡市産業振興部みなと振興課）

令和4年9月末から10月にかけて、伏木富山港（伏木地区）周辺の小学校4校の5年生を対象とした「小学生みなと見学会」を実施しました。

本見学会は、古く万葉の時代から港とともに発展してきた「みなとまち伏木」に対する意識醸成や伏木外港をはじめとする港湾整備の理解促進を図ることを目的に国土交通省北陸地方整備局伏木富山港湾事務所の協力を得て毎年開催しています。

今年度の見学会では国土交通省所有の港湾業務艇「なごかぜ」に乗船し、地元の伏木富山港（伏木地区、新湊地区）の港湾施設を海上から見学したほか、地元の公共交通機関である万葉線鉄道に乗車し、「モノを運ぶ港」と「人を運ぶ鉄道」を一体的に説明することで、地域の交通機能を身近に感じ、港湾との繋がりとともにその役割や重要性について理解を深めてもらいました。

参加した児童は普段体験できないことばかりで楽しんでいた様子で、学校側からも好評を頂きました。地元の「みなと」を通じて、港湾の役割について学ぶ機会を今後も継続して提供できるよう努めてまいります。

地域の足を支える万葉線について勉強

港湾業務艇「なごかぜ」に乗船

●北陸地域国際物流戦略チーム「令和4年度第1回広域バックアップ専門部会」を開催しました。

（北陸地方整備局　港湾空港部　クルーズ振興・港湾物流企画室）

令和4年10月12日（水）、新潟市内において、北陸地域国際物流戦略チーム（事務局：北陸地方整備局、北陸信越運輸局）「令和4年度第1回広域バックアップ専門部会」を開催しました。

本専門部会では、産業が集中する太平洋側で大規模災害が発生した際に、我が国の物流機能の維持等を検討しております。

今年度は、10年の節目を迎える外貿コンテナの代替輸送訓練における新たな取組および新たに行う内航 RORO 船・フェリーを活用した代替輸送訓練に向けての検討を行いました。

構成員より、多数の貴重なご意見を頂き外貿コンテナ代替輸送訓練の実施方針及び内航 RORO 船・フェリーを活用した代替輸送訓練に向けた検討スケジュールについて了承されました。

第1回広域バックアップ専門部会の様子

●新潟港東港区で全国の高校生が参加する防災訓練を実施

（北陸地方整備局　港湾空港部）

10月18日（火）、新潟市内で開催された『「世界津波の日」2022高校生サミット in 新潟』の関連プログラム（若き津波防災大使スタディツアー）の一環として、国が取り組む防災活動への理解を深めてもらう目的で、新潟港東港区南埠頭木材岸壁において、新潟県、聖籠町の協力を得て防災訓練を行い、全国から集まった127人の高校生が訓練に参加しました。

主な訓練内容は、新潟沖で大規模な地震が発生し、津波により港内のタンクから海上に油が流出したとの想定で、高校生には大型浚渫兼油回収船「白山」と巡視艇「ゆきつばき」による油防除訓練と「ゆきつばき」による人命救助訓練を見学した後、白山からの緊急支援物資のリレー輸送や避難所での仕分け作業を体験してもらいました。

高校生たちからは、「一人よりみんなでやれば早くできることがわかった」、「あまり体験することの無い経験ができ、防災意識を身につけられた」とのコメントがありました。

最後に、北陸地方整備局から「今日の防災訓練の経験を生かして、また、高校生サミットでの学びを合わせてリーダーとして地域の防災を引っ張って頂きたい。」との挨拶で締めくくりました。

高校生による緊急支援物資のリレー輸送

参加した高校生と「白山」との記念撮影

●新潟の海砂研究所～新潟の海の幸は砂が大事～

（北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所）

新潟港湾・空港整備事務所は、令和4年10月22日に、日本財団が主催する「海と日本 PROJECT in 新潟」に協力し、新潟県内の小学5～6年生20名を対象にして、侵食対策をおこなっている新潟港海岸の砂浜の状態や消波ブロックの役割を題材にした講義を行いました。

「海と日本 PROJECT in 新潟」は、海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちが自分事としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくプロジェクトです。今年のテーマは、海岸防護の必要性や海の環境問題を学ぶために、新潟の砂浜を研究したい小学生を公募し開催されました。

参加した小学生たちは、教材として用意していた県内様々な海岸の砂の色や粒の大きさなどを熱心に観察し、地元新潟の砂浜でも場所によって違いがあることに新たな発見があったようです。また、「消波ブロックの大きさはどのように決めるのか？」や「コンクリートは海に流れ出ないのか？」などの多くの質問があり、海岸施設の役割について興味を示しながら講義に聞き入っていました。

●第49回川崎みなと祭りが開催されました！

（国土交通省関東地方整備局首都圏臨海防災センター・京浜港湾事務所）

10月8日（土）～9日（日）、川崎マリエン周辺及び東扇島東公園において「第49回川崎みなと祭り」のメインイベントが開催されました。

「川崎みなと祭り」は、川崎港に対する親近感を高めてもらおうと、「みんなの川崎港」をテーマに、港湾関係機関・団体が協力して4年ぶりに開催され、今年は感染症対策を講じながら、年間を通じて楽しめるよう、日時と場所を分散した小規模イベントも開催されています。

メインイベント当日は、港で働く荷役機械の展示や川崎港クルーズ、ビーチバレーの大会など様々な催しが行われ、関東地方整備局では、京浜港湾事務所から川崎港臨港道路東扇島水江町線に関するパネル展示やVR映像体験と、東扇島東公園内にある首都圏臨海防災センターにおいて災害対応車両や重機、備蓄資機材の展示を行い、2日間で合計600名以上の方が来場しました。来場者からは、「川崎臨港道路をはじめ、国の事業について理解が深まった」「VR映像で宙に浮いているような体験ができて楽しかった」などたくさんの感想いただきました。

VR 映像体験の様子

災害対応車両等の展示の様子

●「東京湾大感謝祭2022」3年ぶりに対面で開催！

（国土交通省関東地方整備局港湾空港部・千葉港湾事務所）

東京湾大感謝祭は、国土交通省が参画する「東京湾再生官民連携フォーラム」の活動の一環として、都市に住む市民や企業、団体と国や自治体がともに、海の再生を考え、行動するきっかけを提供する場として、2013年より毎年10月に開催しております。

第10回目となる今年は、10月15日（土）～16日（日）の2日間、横浜港大さん橋ホール及び周辺海上において、3年ぶりに対面開催されました。

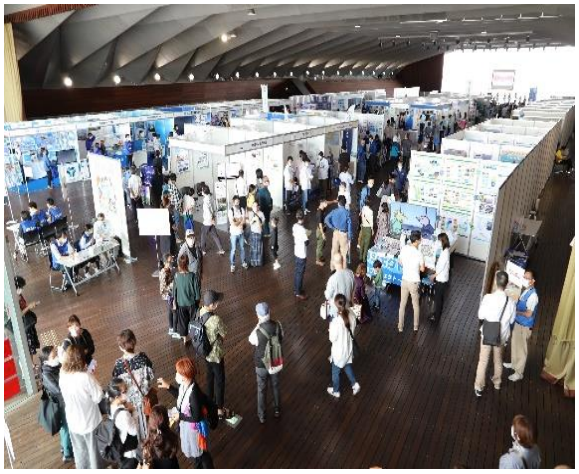
当日は、オープニングセレモニーや東京湾再生アンバサダーの桝太一さんと木村尚さんによるスペシャルトークショーなどのステージイベントをはじめ、関係する企業や団体の取り組み等の展示、ヨット・ボートの体験乗船会、親子ハゼ釣り教室など、様々な催しが行われました。

関東地方整備局では、東京湾再生の取り組みに関するパネル展示や動画放映のほか、今年就役した清掃兼油回収船「べいくりん」の甲板見学会を実施しました。来場者からは「関東地方整備局って、東京湾再生の取り組みもしていたのですね」、「べいくりんを見学できる機会はなかなかないから、とても良い機会だった」など、たくさんの感想をいただきました。

なお、「東京湾大感謝祭2022」は、昨年に続きオンライン展示を実施しています。2023年9月30日まで公開しておりますので、ぜひご覧ください！

「東京湾大感謝祭２０２２」オンライン展示：https://tokyobayfes.jp/

オープニングセレモニーの様子



会場の様子

パネル展示の様子

「べいくりん」見学会の様子

●御前崎港親子釣り体験教室を開催しました！

（御前崎みなとまち振興連絡会（事務局：御前崎市））

令和4年10月30日（日）、御前崎みなとまち振興連絡会（事務局：御前崎市）の主催による「御前崎港親子釣り体験教室」を開催しました。

釣り初心者の親子連れ16組35名のご家族にご参加いただき、（公財）日本釣振興会静岡県支部（以下「振興会」）による魚釣りの基本やマナー、安全対策などの講義を受けた後、御前崎港中央ふ頭で釣りを行いました。

当日は、朝方より少し風が強く心配いたしましたが、天候に恵まれ、新型コロナウイルス感染症防止策を講じた上で、振興会の講師の指導のもと、サビキ釣りに挑戦していただき、アジ、ギンガメアジ、ヒイラギ、タカノハダイなどがたくさん釣れ、参加者からはとても楽しかったとの感想もいただきました。

今回の釣り体験教室は、普段は荷役作業のため釣りが禁止されている中央ふ頭について、港湾関係者からの御協力をいただき、ふ頭の一部を開放して行ったもので、今回がはじめての開催でした。

御前崎港は、令和2年8月に国土交通省の「釣り文化振興モデル港」に指定され、地域の関係者により地方創生を目的とした釣り文化振興の取組を進めています。

今後も引き続き、こうした機会を通じて、釣り文化振興の取組を進めてまいります。

●「伊勢湾・三河湾の水産資源に必要な栄養や生息場について考えるシンポジウム」を開催！

（中部地方整備局 港湾空港部）

令和4年10月25日（火）、名古屋市 ウインクあいち にて、「伊勢湾・三河湾の水産資源に必要な栄養や生息場について考えるシンポジウム」を開催しました。

今回のシンポジウムは、生物資源の回復に向けた栄養塩の在り方や生物生息場の環境について、学識者・行政・漁業者等で議論を交わし、近い将来の伊勢湾・三河湾について考えることを目的に開催されたものです。

基調講演では、名城大中田特任教授より、伊勢湾シミュレーターを用いた生物資源量回復の解析・予

測について報告がなされ、栄養塩濃度を増加させた場合に、あさり資源等が回復する予測結果などが報告されました。

また、ジャパンブルーエコノミー技術研究組合桑江理事長から、ブルーカーボン生態系とJブルークレジットの取組についての話題提供がありました。

パネルディスカッションでは、名城大中田特任教授をコーディネーターとして、学識者・行政関係者等をパネリストにお招きし、来場者も交え、伊勢湾・三河湾の水産資源に必要な栄養や生息場の環境について多くの意見が飛び交い、活発な議論が行われました。

写真：パネルディスカッションの様子

●「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」誕生

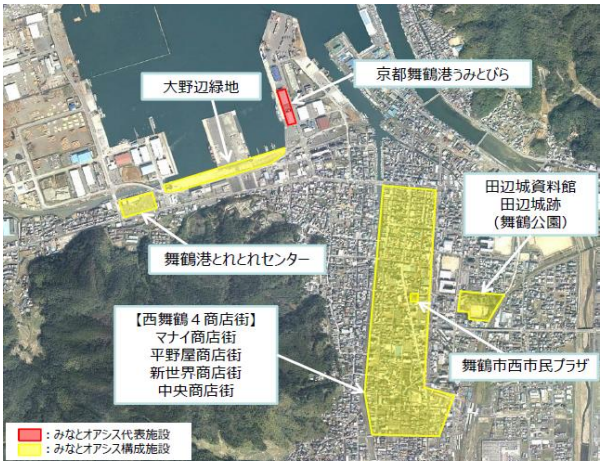
（近畿地方整備局　港湾空港部　港政課）

令和4年10月15日（土）、京都府舞鶴市の大野辺緑地にて「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」の登録証交付式が行われました。

「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」は近畿地方整備局港湾空港部管内で16箇所目（全国では156箇所目）の「みなとオアシス」で、海の京都の玄関口として令和3年4月にオープンした「京都舞鶴港うみとびら」など舞鶴市内7施設から構成され、それぞれの特色を活かして舞鶴ならではの魅力を感じることができます。

交付式当日は、登録記念イベントや海を守る船の公開や体験乗船などを行う「ブルーフェスタ2022」が開催され、近畿地方整備局舞鶴港湾事務所も展示ブースでの事業説明や港湾業務艇「きのかぜ」による体験航海でイベントに参加しました。

西尾産業港湾課長から堤舞鶴市副市長へ
の登録証の交付



「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」
構成施設位置図

展示ブースでのパネルによる事業説明

「きのかぜ」から停泊中の「飛鳥Ⅱ」を
写真に収める乗船の方々

●今治港開港 100 周年記念事業「みなとフェスティバル 100」が開催されました！

（今治市　建設部建設政策局港湾漁港課）

令和4年10月15日（土）、16日（日）に、愛媛県今治市の今治港・みなと交流センター「はーばりー」周辺にて、今治港開港100周年記念事業「みなとフェスティバル 100」が開催されました。（主催：今治市港湾振興協会）

今治港は大正11年2月に四国初の開港場に指定され、今年で 100 周年を迎えました。イベントは、今治港100年の歴史を振り返り、海や港に対する関心と理解を深めるとともに、港の活かし方・楽しみ方を創造し、賑わいの創出と交流人口の拡大を図ることを目的として実施されました。

帆船「みらいへ」などの船内見学・体験航海や「100年の小路」と題した今治港100年の歴史を振り返る展示、約50店舗の地元グルメや特産品が並ぶ「みなとマルシェ」などが行われ、大人から子供まで楽しむことができるイベントとなりました。イベント1日目にはブルーインパルス展示飛行も行われ、開港 100 周年に華を添えていただき、2日間で約25万人の人出がありました。

今治港では、市民や来訪者が憩い集うことのできる「交流のみなと」を目指し、賑わいの創出に向けた取組を進めているところです。今回のイベントを契機に更なる活性化に取り組んでまいります。

オープニングセレモニーでのくす玉開披

帆船「みらいへ」の船内見学

みなとマルシェの様子

ブルーインパルスとしまなみ街道

●「第１回八代港の中長期ビジョンに関する検討会」を開催

（九州地方整備局　熊本港湾・空港整備事務所）

令和4年10月13日（木）、八代港をモデル港として概ね20年から30年先に必要と想定される港湾機能と役割を考え、対応の方向性や取組方策等を中長期ビジョンとしてまとめる「八代港の中長期ビジョンに関する検討会」の初会合を九州地方整備局の主催により開催しました。

検討会では、物流機能と人流・賑わい機能で構成を分け、それぞれの機能面について港湾利用者や行政関係者等の構成員より活発な議論がなされました。

＊：＊

３　お知らせ（みなとのイベント情報）

＊：＊

◇イベント名：深日洲本ライナーの運航

【運航日時】令和 4 年 6 月 25 日～11 月 27 日の土日祝日

【場　　所】兵庫県洲本市～大阪府岬町

【概　　要】土日祝日限定で深日港と洲本港を結ぶ「深日洲本ライナー」を 1 日 4 往復運航
　　します。スポーツサイクルを持ち込めますのでサイクリングにも最適です。

【Ｕ　Ｒ　Ｌ】https://fuke-sumotoliner.com/

＊：＊：＊：　本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先　：＊：＊：＊：＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002　港区愛宕１－３－４

TEL ： 03-5776-0630　　FAX ： 03-5776-0631

e-mail ： bcf06323@nifty.com

＊：＊